

上海租界における外国人のスポーツ活動に関する研究

——『申報』（1872-1911）の記事分析を中心として——

麦 媛*・大熊 廣明**・田原 淳子***

Research on the Sports Activities of Foreigners in the Shanghai Concessions:
through an Analysis of Articles in the Shen Bao (1872-1911)

MAI Yuan*・OHKUMA Hiroaki**・TAHARA Junko***

Abstract

In order to discuss the process involved in the introduction and development of modern sports in China, it is necessary to clarify the sports activities of foreigners in the concessions. This research examines the sporting events engaged in by foreigners in the Shanghai concessions, which were the largest in size and also had the largest number of foreign residents, through an analysis of articles appearing in the Chinese language newspaper the Shen Bao (1872-1911). The purpose thereupon is to clarify the circumstances surrounding the daily sport activities of foreigners and sports competitions and their new view of sports for the Chinese.

The research clarified the following: (1) among the sports activities of foreigners in the Shanghai concessions, the Chinese had the greatest interest in horse racing, followed by boat races and athletic meets, (2) the activities had some colonial characters and (3) they first came into contact with the sports activities of foreigners by watching them as spectators. And they became aware for the first time, through the manner in which foreigners participated in sports activities, that sports were also leisure activities, that they were beneficial in training all parts of the body and also had a positive effect on health, and that sports required clearly-defined rules, organizations and venues.

キーワード：上海租界、申報、近代スポーツ、スポーツの受容

Keywords: Shanghai concessions, Shen Bao, modern sports, acceptance of sports

1. 緒言

1.1 研究の背景

中国は1932年第10回ロサンゼルス大会でオリンピックに初参加し、1990年代以降にオリンピックのメダル獲得数を着実に増やし、競技スポーツのレベルの高さを世界にアピールするようになった。2008年に夏季オリンピックを開催した北京は、2022年には史上初めて夏冬両オリンピックの開催

都市になる。一方、中国では競技スポーツのみならず、スポーツの普及振興によって、国民の健康増進と体力向上が図られ、スポーツに対する国民の関心と支持も高まっている。そこに至るまでには、1840年代から始まった中国の近代化過程、各外国人居留地で行われたスポーツ活動、ミッションスクールとYMCAの体育・スポーツ活動、及び清朝政府が西洋の技術・文化の積極的導入を図った洋務運動（1861-1895）が、中国における

原稿受理：2016年9月8日

* 国士舘大学大学院 Graduate School, Kokushikan University

** 筑波大学 名誉教授 Professor emeritus, University of Tsukuba

*** 国士舘大学 Kokushikan University

近代スポーツの導入・展開に大きな役割を果たし、中国の近代スポーツ発祥の原点になったと言われている¹⁾。

洋務運動では、新型の学校の創設、書籍の翻訳、学生の海外派遣などがなされ、近代スポーツが中国に導入された。1870年代から帰国した留学生によって盛んに西洋のスポーツが伝達され、1895年には北京の学校で野球チームが創設され、対校試合が行われた²⁾。

キリスト教の宣教師は、中国にとっての各種の不平等条約の下で、中国におけるミッションスクール設立の特権を獲得した。これにより中国各地でミッションスクールの設立が加速され、そこが西洋の近代スポーツ伝播の重要な場になった。大部分のミッションスクールにはスポーツの組織と代表チームがあり、設備の整ったスポーツ施設が整備されていた³⁾。セントジョーンズ学院で1890年に開催された運動会は、中国近代スポーツ史上初めての運動会であった⁴⁾。また、19世紀末から20世紀初めにアメリカ人が中国に創設したYMCAは、近代スポーツの紹介、設備、組織化及び指導者の育成などの各方面で重要な役割を果たした⁵⁾。このようにミッションスクールとYMCAは様々なスポーツの理論や技術の紹介、競技会の組織運営法などを中国に普及させた。

ところで、中国の近代化過程の起点は、1840年に勃発した第1次アヘン戦争にあると言われている。この戦争の終結後、1842年にイギリスと清朝政府は「南京条約」を締結した。この条約により、清朝政府は貿易港として広州、福州、廈門、寧波、上海の5か所を開放し、イギリス領事の駐在及びイギリス商人とその家族が自由に居住することを許可した。これらの貿易港付近に設置された外国人居留地は、中国の近代化が展開された中心地であり、中国における近代スポーツの発祥地であると言われている⁶⁾。

アヘン戦争後に開放された貿易港のうち、上海は貿易港として注目されるようになる以前から、既に移民都市として発達してきており、他の貿易港よりも外来文化を受け入れる素地を有してい

た。1845年11月29日、上海政府とイギリス領事は「上海土地規程」(The Shanghai Land Regulations)を締結して上海イギリス租界を設立した。それ以後、アメリカ租界、フランス租界が次々と加わり、1854年7月、英米仏租界が形成された。しかし1862年、仏租界(Shanghai French Concession)はこの租界から独立し、1863年、英米租界は正式に合併して共同租界(Shanghai International Settlement)となった。租界では行政権と治外法権が認められ、清朝政府の施政権がほとんど及ばない状態になり、中国人の生活習慣は英米仏の風俗習慣を受け入れながら変容していった。1937年に日中戦争が勃発し、第二次上海事変をきっかけに、上海は実質的に日本軍の統制下に置かれるようになった。その後、1943年に南京の汪兆銘の国民党政権が公式に共同租界とフランス租界を接収し、これによって租界の歴史は終わりを告げた。上海租界は約100年の歴史(1845-1943)を持ち、中国の外国人居留地の中では最も古く、面積も最大で、居住した外国人の数も最も多かった⁷⁾。したがって、中国の近代化に及ぼした影響も最も大きかったとされている⁸⁾。

上海租界の外国人は、租界創設以来、様々なスポーツの組織を作って活動し、1850年代から、ボウリング、競馬、ボート、フットボール、ポロ、陸上競技、ゴルフなどのスポーツ活動を展開した。これらの活動は、中国人に近代スポーツを見る機会、理解する機会を提供することになった。中国人はこれらの目新しいスポーツに関心を持ち、自らのスポーツ組織を作り、活動を始めたのである。このように、上海租界は近代スポーツの中国への導入、展開において重要な役割を果たした。

1.2 研究の目的

従来の中国近代スポーツ史研究では、YMCAやミッションスクール、洋務運動とスポーツとの関係に関心が向けられ、上海租界の外国人のスポーツ活動についてはあまり注目されてこなかった。しかし、年代的に見て中国人が初めて西洋のスポーツに接したのは、YMCAやミッションス

クールにおける諸活動や清朝政府による洋務運動ではなく、租界の中で最も歴史が古く、最大規模を誇った上海租界における外国人のスポーツ活動であったと思われる。そこで本研究では、上海租界において外国人が行ったスポーツ活動を取り上げ、その種類と日常的な活動や競技会の様子及びそれらが中国人に与えた新たなスポーツ観について明らかにすることを目的とした。

1.3 研究の方法

上海租界は1845年に創設され、1943年まで存在した。本研究では、この租界が創設された1845年から辛亥革命⁹⁾が勃発して清朝政府が消滅した1911年までを対象とした。主な史料としては、上海で発行された中国語新聞『申報』を用いる。ただし、『申報』の創刊は1872年であることから、これ以前のスポーツ活動の状況に関しては、先行する文献に依拠しながら研究対象とする期間の全体像を明らかにすることとする。この新聞は、イギリス人貿易商のフレデリック・メジャー(Frederick Major)によって発行された中国語新聞で、近代中国において最も発行期間が長く、強い影響力を持った新聞の一つである¹⁰⁾。正式名称は「申江新報」で、清の時代の1872年4月30日に創刊され、1949年5月27日に廃刊になるまで、通算77年間、25,600号まで発行された¹¹⁾。創刊号では、新聞刊行の趣旨について、「国家の政治、外交、新しい文化、…驚き、喜び、警戒すべきことなどをすべて報道する。…真実を重んじ、読者にわかりやすくするように努める。…官吏者は朝政を了解することができて、士君子は詩と詞を朗読することができていい気分になり、商人は経営と貿易の情報を得て、旅行者は船舶入出港の情報を知り、俗っぽい事で笑わせて目の前の世界を広げていく」¹²⁾と述べられている。当時の中国社会の主要な構成要素は、官吏以外の平民は知識人・農民・職人・商人(「四民」とも言う)に区分されており、官報の読者は官吏と知識人に限定されていた。それに対し、『申報』は読者の階層を特定せず、すべての華人が読める新聞を目指していた。『申報』

は利潤をあげることを目的とするビジネス新聞であり、その経営方針は最も広範な読者を味方に引き入れることであった。その内容は多種多様で、異なる階層の読者の需要を満足させた。『申報』の読者の範囲は当時文字を読める能力があるほとんどすべての階層にわたっていた。つまり、普通の庶民が、『申報』を読むことを通して文化を啓蒙する機能を果たそうとしたのである¹³⁾。

本研究で対象とした『申報』は上海で最も早く創刊された中国語の一般紙であった¹⁴⁾。その紙面は社説、ニュース、『京報』¹⁵⁾の再録及び広告の4部から構成され、上海租界の外国人のスポーツ活動は、「新しい文化」の一つとして、ニュースの紙面の重要な構成成分となり、大きく取り上げられた。

上海租界の初期には、一般の中国人がそこに入ることは禁じられていた。また、租界外で行われる外国人のスポーツ活動においても、中国人はその会場に入ることが許されなかったため、中国人にとって外国人のスポーツ活動を直接見ることは容易ではなかった¹⁶⁾。しかし、『申報』の中国人記者は上海租界で行われた外国人のスポーツ活動取材し、記事にすることができた。そのため、1872年に創刊された『申報』のスポーツ記事は、当時の中国人が外国人のスポーツ活動を知るための重要な情報源となった¹⁷⁾。その後、『申報』は上海の地方紙から中国全土に巨大な影響力を持つ新聞に成長し、中国内外のニュースを報道して、通信社の役割を果たし、中国の近代化の過程を見つめてきた。77年間の『申報』のスポーツ関係記事の内容と形式にも大きな変化があり、中国における近代スポーツの受容と展開の歴史を反映した¹⁸⁾。

ここ数十年間に、『申報』は中国内外の各領域の研究者が関心を持つ重要な史料になっている。しかし、『申報』のスポーツ関係の記事に関する研究は非常に少なく、それらの研究のほとんどは中国の近代新聞・メディア発展史に着目して『申報』のスポーツ関係記事の一部を分析したものであり、『申報』を第二義的に用いているに過ぎな

い¹⁹⁾。一方、本研究においては、創刊された1872年から1911年までの『申報』を主な史料として用い、そのすべてのスポーツ関係記事を分析の対象にした。

1.4 1872年以前の上海租界におけるスポーツ活動

1.4.1 近代スポーツの導入

上海租界内には外国人の独立した行政、司法、立法機関があり、中国政府の行政権力は租界内には及ばなかった。したがって上海租界は、国の中に別の国が存在するような「国中の国」であった²⁰⁾。上海租界内の外国人の文化的活動やスポーツ活動は、すべてその母国の習慣によって行われた。

『上海体育志』は、19世紀中葉に上海租界で行われたスポーツについて、以下のようにまとめている「19世紀中葉、上海租界の範囲の拡大に伴って、外国人も日に日に増加し、ヨーロッパで流行していた近代スポーツが次第に租界でも行われるようになった。1848年、上海ではすでに室内ボウリングと室内ハンドボールが行われ、その後続々とボート、競馬、クリケット、体操、テニス、フットボール、陸上競技、水泳、野球、ゴルフ、ヨットなどのスポーツも実施された。また、各種のスポーツ組織も次第に創設されるようになった。最も早かったのは1850年に創設された上海競馬クラブである。その後、ボートクラブ、クリケットクラブ、上海娯楽基金、ローンボウルズクラブ、野球クラブ、水泳クラブ、テニス連合会、フットボール協会なども設立された。その中で最も活動が活発であったのは競馬クラブとフットボール協会であったと言われる。それぞれの組織は毎年競技会を開催したが、この時期つまり19世紀中葉に中国人がそれらの競技会に参加することはほとんどできなかった²¹⁾」。

1.4.2 主要なスポーツ組織と競技会

上海租界に存在した外国人の主なスポーツ組織と主な競技会を表1に示した。最初に創設されたのは、上海競馬クラブ（1850年）であり、先行研究で中国における近代スポーツ導入の先駆けとし

て記されたYMCAやミッションスクールが上海において設立された時期よりも早かったことになる。上海YMCAは1900年に設立され、表1に示したように上海における西僑青年会（FOREIGN YMCA）は1920年代の設立である。YMCAやミッションスクールが上海においてスポーツ活動（体育・スポーツの授業と競技会）を展開したのは19世紀末から20世紀初めにかけてであった²²⁾。上海租界における外国人のスポーツ活動はそれより早く、19世紀後半に既に盛んに行われていた。先行研究では上海ローンテニス協会は1874年以前に設立されたが、主な競技会は20世紀初頭になって初めて開催されたと記述されている²³⁾。しかし、その間の数十年にまったく競技会が行われなかったとは考えにくい。このように従来の研究では、上海租界における外国人のスポーツ活動の詳細に関する研究は不十分であると言わざるを得ない。

2. 『申報』におけるスポーツ関係記事の全体像

1872年から1911年の40年間に発行された『申報』におけるスポーツ関係の記事数は676であった。図はそれらを種目別に分類し、各記事数とその変化を示したものである²⁴⁾。図からわかるように、この期間の外国人のスポーツ関連記事は、競馬、ボート、運動会の3つが主要なものであり、中でも競馬の記事は圧倒的に多かった。『申報』のスポーツ報道量は1872年の創刊号から1890年ごろまでは全体的に上昇傾向を示し、その後穏やかに下がる傾向がみられた。当時の中国人にとって西洋スポーツは非常に新鮮で、『申報』の記者はこれらのスポーツのルール、試合開催日程、試合の状況などを積極的に紹介した。しかし、後述するが、1890年以後になると、中国人はすでにこれらのスポーツを理解し、知識を持つようになったこと、種目によっては会場で直接目にするようになったことなどから、報道量は安定的に下降したものと考えられる。以下に、各スポーツの記事の傾向について述べる。

表1 外国人が創設した主要なスポーツ組織と主な競技会

創設年	主な組織名	主な競技会名	初回開催年
1850年	上海競馬クラブ (Shanghai Race Club)	春と秋の競馬	1851年
1860年	上海娯楽基金 (International Recreation Fund, 万国体育会とも称した)	万国クロスカントリー大会	1902年
		万国競歩大会	1904年
1864年頃	上海ボートクラブ (Shanghai Rowing Club)	春と秋のボートレース	1864年頃
1874年以前	上海ローンテニス協会 (Shanghai lawn tennis association)	ローンテニス選手権大会 男子シングルス Lawn tennis championships (men's singles)	1901年
		ローンテニス選手権大会 男子ダブルス Lawn tennis championships (men's doubles)	1912年
1902年秋	上海フットボール協会 (Shanghai football association)	スコットチャレンジカップ Skottowe challenge cup	1902年
		フットボールリーグ戦	1907年
		国際杯フットボール大会	1908年
		貿易港フットボール対抗戦	1908年
1903年頃	上海万国テスクラブ	なし(注)	1904年
1910年	中華全国体育協進会	万国運動会	1911年
1920年代	西僑青年会 (FOREIGN YMCA)	バスケットボールオープン戦、バレーボールオープン戦	1920年代

上海体育志編纂委員会：上海体育志，上海社会科学院出版社、1996、pp.678-710より作成

(注) 競技会が実施された実態は確認できないが、会員同士の試合が不定期に行われていた。

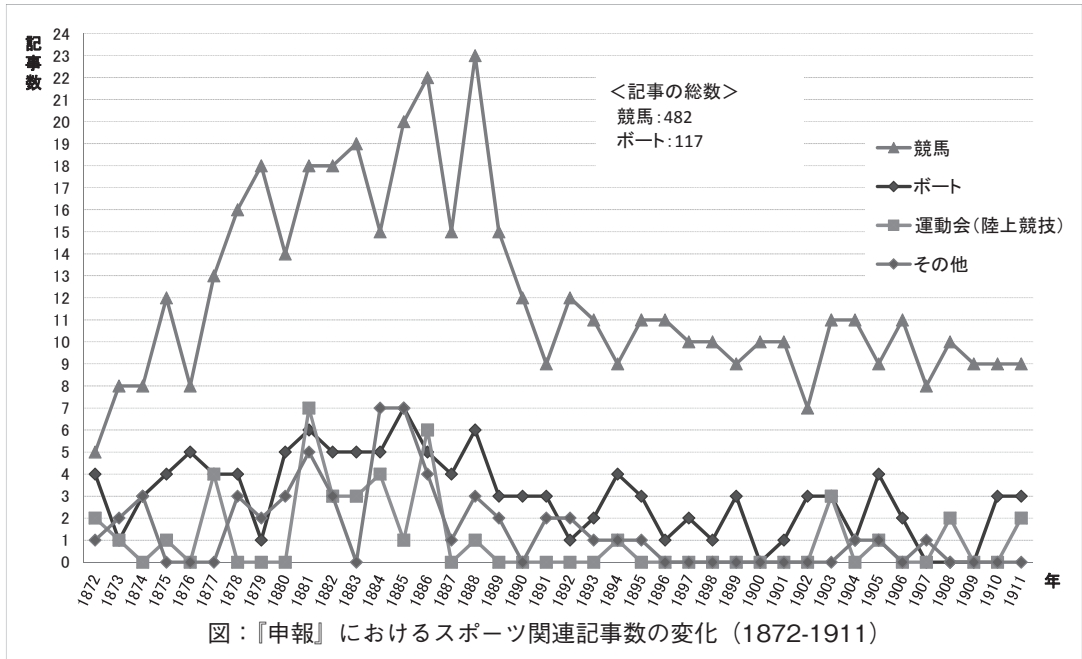
2.1 競馬に関する記事

中国初の競馬クラブである上海競馬クラブ (Shanghai Race Club) は1850年に創立され、イギリスの商人ホッグ (W. Hogg) らがイギリスのニューマーケット競馬場²⁵⁾ から上海に導入したものであった。

競馬は上海競馬クラブ創設の翌年から開催されており、『申報』の創刊は競馬の開催から22年目に当たる。『申報』は創刊以来、外国人の競馬に大きな関心を寄せ、毎年春と秋に開催される競馬の日時やレースの予想、レースの様子、観客などについて報じた。創刊当初から1888年までは、競馬に関する記事数は増加傾向を示した(図)。『申報』は「競馬は激しい動きがあって刺激的であり、

勝敗によるギャンブルを伴うスポーツとして中国人の目には極めて新鮮に映った」²⁶⁾と記している。『申報』は、中国人の競馬に対する関心の高まりに応じて、競馬に関する報道を増やしていった。それらの記事は中国人が外国人の競馬を理解するための重要な情報源になっていたと考えられる。

競馬の記事数が減少した1891年以降の安定期では、競馬の開催日時とレースの結果が中心に報道された。「この時期は上海租界における中国人のギャンブルの風潮が盛んになっていく時期でもあった」²⁷⁾。競馬のレース結果を知らせる記事は、上海租界の中国人のギャンブルと密接な関係にあった。



2.2 ボートレースに関する記事

ボートレースに関する記事数は創刊から1885年までの14年間、上昇傾向を示している（図）。上海租界における外国人のボートクラブ（The Shanghai Rowing Club）は1864年頃に創設され、1927年まで毎年定期的にレースが行われた²⁸⁾。ボートレースは入場制限のない屋外スポーツの一つであり、「激しい動きを伴う競技として、すぐに中国人の興味を引きつけた」²⁹⁾。『申報』が創刊した年は外国人のボートレースが始まって9年目で、ボートレースを見ることはすでに中国人の新しい娯楽の一つとなっていた³⁰⁾。『申報』はボートの種類や漕手の人数などについても報道していたが、1886年から1892年にかけてボートレースに関する記事数が減少してからは、ボートレースの開催日時とその結果が主な報道内容になった。

2.3 運動会（陸上競技）に関する記事

運動会（陸上競技）に関する記事数は、創刊年から1886年までみられるが、概ね上昇の傾向を示している（図）。これは上海租界の外国人の運動会が中国人にとって全く新しい競技で、よく知

られていなかったからである。競馬場で行われた外国人の盛大な祭りのような運動会は、多くの中国人の興味を引きつけた。一般の中国人は運動会の知識に乏しかったため、『申報』は常に運動会の各種目などを紹介した。

当時の『申報』は読者の興味本位の視点から、読者の関心がある話題の記事を多く掲載した³¹⁾。従って、1887年から運動会に関する記事数は極端に減少し、開催日時などが報道されなくなったのは、読者のこれらの記事に対する関心度が減少したためだと言えよう。その背景として、前年の1886年から中国人男性の競技場（競馬場）内への入場が許可されたため、運動会が珍しいものではなくなったことが関係していると思われる³²⁾。つまり、一般の中国人が運動会を直接観戦できるようになったことにより、『申報』が唯一の情報源ではなくなり、種々の方法で上海市民に運動会の情報が伝達されるようになったためだと考えられる。また、19世紀の後半から上海に設立されるようになったミッションスクールでは体育の授業で陸上競技を教えていたし、セント・ジョーンズ大学³³⁾では1890年から毎年運動会を開催した³⁴⁾。これら

のことが、上海市民の運動会に関する知識を豊富にしていたことは想像に難くなく、『申報』の記事数の減少にも影響を及ぼしたものと推察される。

2.4 その他のスポーツ活動に関する記事

競馬、ボートレース、運動会以外の「その他」のスポーツ種目（ペーパーハント、クリケット、ビリヤード、フットボール）の記事数は、創刊から1885年までの期間、むらが見られるものの上昇傾向を示している（図）。これらのスポーツは中国人にとって全く新しい競技であったため、『申報』がこれらのスポーツに関する情報を中国人に紹介したと思われる³⁵⁾。しかし、1886年から記事数は減少した。この背景として、上海租界の外国人のクリケット、ペーパーハント、ビリヤード、フットボールなどのスポーツが Shanghai Cricket Club、Shanghai Paper Hunt Club、Billiards club、Shanghai Football Association などのクラブ組織で行なわれていたことを指摘することができよう。中国人はこれらの組織への入会を認められていなかった。そのため、それらのスポーツを体験する機会が乏しく、次第にそれらに対する関心が薄れていったのである。

3. スポーツの試合の概況

競馬は春と秋に開催され、競馬の1-2週間前にボートレースが、競馬の終了後1週間以内に運動会が、いずれも年2回開催された。ペーパーハントは、秋の運動会が終了してから春の競馬が開催されるまでの初冬から初春にかけて実施され、年4回行われた。

スポーツの試合が開催された主要な場所は競馬場で、競馬のほかに、運動会、ペーパーハント、クリケットも実施された。その他、ボートは河や港の埠頭で行われ、ビリヤードには専用のビリヤード場が使用された。

これらのことから、上海租界における外国人スポーツの最大のイベントは競馬であり、その場所は競馬場を中心に展開されていたことがわかる。

以下にそれぞれのスポーツの概況について述べる。

3.1 競馬の概況

競馬は年2回、春の4月下旬から5月上旬、秋の10月下旬から11月中旬にそれぞれ3日間開催された³⁶⁾。競馬は概ね月曜日から水曜日までの3日間行われ、稀に週末と祝日に開催されることもあった。1日8レースが行われ、レース毎の出頭数と距離は様々で、3日目の最後の1レースは障害レースであった。外国人の間で競馬は非常に人気があったため、通常、レースは1日追加された。4日目の騎乗者は外国人騎手と調教師で、調教師はほとんど中国人であった。

創刊時から1881年までの『申報』には、競馬の1週間前にレースの具体的な日程が公表されたが、1882年以降は、レースの2週間前から1ヶ月前に予告された。そのほか、常に観客の様子も伝えられた。

1888年以降は、レース毎の出頭数と距離が詳しく記載され始めた。競馬のレース数は1890年から変化した。1日目と2日目には、それぞれ約9レース行われるようになり、3日目はそれ以前と同様に8レースが行われた。また、『申報』にはレースの様子をより詳しく伝える記事が掲載され、レースの優勝者の賞金と賞品が紹介された（表2）。

3.2 ボートレースの概況

外国人のボートレースは1年に2度、春と秋の競馬のレースの1-2週間前に開催された。春のレースは1日あるいは2日間行われ、秋のレースは概ね2日間行われた。

上海租界における初の外国人によるボートレースは蘇州河で行われた。蘇州河を利用する船舶が増えると、上海ボートクラブは事務局を1904年に上海の恒豊路に移し、そこでレースを開催した。翌1905年、ボートクラブの事務局は蘇州河口の南岸に移転したが、河口付近は船舶の往来が多かったため、レースは崑山青陽港の黄家埠頭で行われた³⁷⁾。

外国人のボートレースは、ボートの規格も統一されており、競争が激しく、見る者を魅了した。

表2 競馬のレース (1894年5月1日)

レース	頭数	距離	時間	優勝者の賞金、賞品
1	12	1里半 ^①	約1分	銀杯1個
2	10	4里半	3分24秒	$(15 \times 10 + 100) \times 0.75 = 187.5$ 両 ^②
3	5	4里	2分41秒	1袋の金銀(価値不明)
4	3	6里	4分28秒	銀杯1個(価値:150両)
5	7	4里半	3分15秒	$(10 \times 7) \times 0.5 = 35$ 両、銀杯1個(価値:200両) ^③
6	13	4里	2分45秒	銀杯1個(価値=100両)
7	7	3里	2分9秒	銀杯1個(価値=100両)
8	7	4里半	3分14秒半	$(5 \times 7 + 100) \times 0.7 = 94.5$ 両 ^④
9	5	3里	2分10秒	銀杯1個(価値:100両)
10	8	2里半	1分30秒	$(5 \times 8) \times 0.5 + 100 = 120$ 両 ^⑤

「春郊賽馬記二」(申報、1894.5.2)より作成

備考:

- ① 1里=1/2キロメートル=500メートル
- ② 上海租界の貨幣は中国のその他の地区より複雑で、全国で通用した「高銀」のほかに地元の「溝銀」もあった。外国人が租界で使ったのは「洋元」であった。上表の両は高銀であり、1両=20円である。(許毅:清朝外債と洋務運動。経済科学出版社,2002,p.87)
レースに参加した選手は1人当たり15両を出し、競馬クラブが100両出した。その合計金額の75パーセントの187.5両が優勝者の賞金となった。
- ③ レースに参加した選手は1人当たり10両を出した。その合計金額の50パーセントの35両が優勝者の賞金となった。また、優勝者は200両の価値の銀杯を得た。
- ④ レースに参加した選手は1人当たり5両を出し、競馬クラブが100両出した。その合計金額の70パーセントの94.5両が優勝者の賞金となった。
- ⑤ レースに参加する選手は1人当たり5両を出し、その合計金額の50パーセントの20両に競馬クラブが出した100両を足した120両が優勝者の賞金となった。

3.3 運動会の概況

上海租界における外国人の運動会は、春と秋の競馬終了後1週間以内にそれぞれ一日、競馬場において開催された。祝賀行事あるいは祝日に行われることもあった。

当初、中国人の陸上競技に関する知識は乏しかったため、『申報』の記事では体の動作の特徴によって種目を簡単に分類した。例えば、「競走」、「幅跳び」、「砲丸投げ」はそれぞれ「賽奔逐」(中国の古典文で、走って追いかける競争の意味)、「跳躍」、「擲球」(中国の古典文で、ボールを投げる)と記載された³⁸⁾。1875年になると陸上競技の種目の正式名称が『申報』に記載されるようになり、1881年には、運動会で実施されたすべての陸上競技種目の名称が新聞に掲載された。

運動会では、外国人は常に陸上競技種目以外に各種の余興的種目を行った。余興的種目に関する記事の初出は1881年であった。そこでは陸上競技種目の終了後に同じ競馬場で外国人の子供によるロバ競走が行われ、勝利した子供は褒賞として食

品をもらったことが掲載されている³⁹⁾。

余興的種目には、その他、大人の綱引き、子供の競走、動物の競走などがあつた。興味深いことに、中国人の子供も競馬場に入ることでき、余興的な競走に参加することができた⁴⁰⁾。1886年以後、『申報』は常に、運動会に参加した中国人の子供たちの競走種目について記載するようになった。人数の最も多かった競走には100名以上の子供たちが参加した。

3.4 その他のスポーツの概況

ペーパーハントは、英国で「上流社会」の遊びとして人気のあつた狐狩りを真似たもので、散布された紙片を狐に見立てて追走するものであつた。1863年、上海租界に外国人のペーパーハントクラブ(Shanghai Paper Hunt Club)が創設された⁴¹⁾。ペーパーハントクラブの野外レースは、毎年11月から翌年2月末まで土曜日の午後開催された。それ以外には外国人の伝統的な祝日であるクリスマスと元旦にも行われた。また、ペーパーハントはた

まに郊外ではなく、3月中旬に上海競馬クラブの競馬場内でも開催された⁴²⁾。

クリケットは、先行研究⁴³⁾によれば、上海租界の最初のクラブである上海クリケットクラブ(Shanghai Cricket Club)が1851年に創設され、主に上海競馬クラブの競馬場内で活動した。最初の試合は1858年4月で、1866年には香港クリケットクラブとの定期戦が始まり、1948年まで続けられた。また1893年からは、時々日本の神戸、横浜、及び中国の杭州のチームとの試合も行われた⁴⁴⁾。

フットボールは当時、中国では「蹴鞠」と称されていた。それは外国人のフットボールと中国の伝統的な競技である蹴鞠の規則の間に一定の相似性があったためと思われる。

1881年11月22日、イギリス王室の一行は日本を経由して上海にやって来た。当時の上海租界の外国人は貴賓の来訪に対する歓迎の意を表し、競馬場でフットボールの試合を行った。

外国人の春と秋の競馬の時と同じように、中国人観客が競馬場内に入ってフットボールの試合を見ることは許されなかった。上海フットボール協会は創設以来大会を組織したが、中国人は直接同協会のフットボールの試合を見ることはできなかったのである。なお、中国人が初めて上海フットボール協会の試合に参加したのは1926年のことであった⁴⁵⁾。したがって、本研究が対象としている1911年までに、中国人が上海でフットボールの試合に参加することはなかった。

4. 外国人スポーツの植民地性と中国人への入場制限

上海租界の外国人によって行われたスポーツ活動は、植民地的性格を持ち、競馬場などのスポーツ施設の建設は、上海の中国人の土地を半強制的に接収して行われた。上海租界時代の初期には、中国人は競技場内に入って試合を見るのが禁じられ、場外から観戦せざるを得なかった。それでも多くの中国人がスポーツ観戦に集まった。中国人が競馬場に入って競馬と運動会(陸上競技)を

見ることができるようになったのは、20世紀初頭になってからであった⁴⁶⁾。このように中国人は最初は観客として外国人のスポーツに接していた。一方、入場券の必要のないボート競技では、中国人が早くから接していたこともあり、中国人と外国人との交流戦は1870年代にすでに実施されていた⁴⁷⁾。

4.1 競馬の植民地性と入場制限

外国人は競馬場を建設するために中国人の土地を半強制的に極めて安い価格で買い上げた⁴⁸⁾。ここに競馬の植民地的性格が認められるが、そればかりでなく、外国人は中国人調教師に対しても残酷な搾取を行った。外国人の競馬場経営者と中国人調教師の衝突に関する最初の記事は、以下のように入場制限

中国人調教師の王再生という人は油断して馬車をぶつけてしまった。修理費用は彼が1ヶ月仕事で苦勞して得た給料の10倍である。彼は外国人に給料から修理費用をすべて差し引かれただけではなく、その外国人に殴られ監禁されたのだった。この残虐さに対し、約50人の中国人調教師は同盟してストライキを行い、外国人に彼を釈放するように求めた⁴⁹⁾。

また、1883年9月12日、9月15日の『申報』は、上海競馬クラブの約250名の中国人調教師のストライキを掲載した。

中国人は1909年になって初めて入場券を購入して競馬を観戦することを許可されたが、それ以前には、一般の中国人が競馬場に入ることは許されなかった⁵⁰⁾。

4.2 運動会の植民地性と入場制限

運動会の多くは競馬場で実施され、競馬場以外の場所でも運動会のために接収された土地があったため、植民地的性格を持っていた。初期の運動会では、当日の秩序を維持するため、中国人警官と外国人警官が中国人観客の競馬場内への入場を許可しなかった⁵¹⁾。しかし、1886年になると、男

性中国人が入場券を買って競馬場に入り、競技を観戦することが許可された。ただし、女性中国人の入場は禁じられたままであった⁵²⁾。

なお、上海の中国人富豪は中国人観客が入場を許可される以前から、外国人の運動会のスポンサーとして賞品を提供していた⁵³⁾。

ところで、運動会における中国人の入場許可は競馬より20年近く早いことになるが、それにはどのような要因が考えられるだろうか。『申報』に記載された上海租界の外国人の春と秋の運動会はすべて競馬場で行われたが、先行研究によれば、上海租界の創立以降、外国人はよく教会前の芝生や蘇州河沿岸で運動会を開催し、多くの中国人もそれを自由に見ることができた⁵⁴⁾。また、19世紀後半、清朝政府の洋務運動による新型学校や、西洋人のミッションスクールとYMCAには既に競走、走り高跳び、走り幅跳びなどの陸上競技種目が導入され、定期的に運動会が開催されていた⁵⁵⁾。したがって、中国人の間で陸上競技は競馬より早く普及し、定着していたと見られる。外国人と中国人との交流戦も、運動会は競馬より早期に実施された。さらに、運動会は、競馬に比較して賭けの要素がなく、より安全なスポーツであるため、外国人はある程度の陸上競技の専門知識を持つ中国人観客が試合会場の秩序を乱すことは少ないと考えた。以上のことが競馬より早く運動会が中国人の入場を許可する要因になったと言えよう。

4.3 その他のスポーツの植民地性と入場制限

ペーパーハントは、春の耕作と秋の収穫の季節にあたる2月と11月に開催されたが、田畑を荒らされるため、外国人と上海地元農民との紛糾の種となっていた⁵⁶⁾。このことはペーパーハントも植民地的性格を有していたことを示すものと言えよう。

『申報』で取り上げられた外国人の主なスポーツが植民地的性格を持ち、中国人の入場を制限していた中で、ボートレースだけは競馬の観覧席のような入場に関する制約がなく、中国人は当初から外国人スポーツの中で唯一自由にレースを見ることができた。ボートレースを見ることは中国人

にとって余暇の楽しみの一つになった。

5. 外国人のスポーツ活動が中国人に与えた新たなスポーツ観

競馬やボートレースの日には、上海租界の外国人の行政機関や銀行は業務時間を短縮または休業し、その知らせが『申報』に掲載された。このことで、中国人の目には、スポーツの観戦が新鮮なレジャーとして映った。また、激しい競争を伴う競馬やボートレース、ペーパーハントやクリケットには、国防のための軍事力を高める機能も有していることを中国人に認識させた。さらに、外国人のスポーツ活動を知ることにより、中国人は賭け事や施設建設、運営など、スポーツへの多様なかわり方をするようになった。

5.1 外国人の競馬が中国人に与えた新たなスポーツ観

競馬は、上海租界の外国人の間で既に非常に人気のあるスポーツであったが、やがて南京などの上海周辺の中国人の間でも人気のあるスポーツになっていった。『申報』は、競馬が外国人にとってレジャーの一つであり、中国人の伝統的な娯楽活動よりも健康的で活動的だと感じていた。競馬は中国人への近代的なレジャー観の啓蒙に大きな影響力を持っていた。『申報』のレジャー関連記事の多くは、以下のように競馬を例として、中国の人々に適度なレジャーを楽しむことを提唱している。

中国人の伝統的なレジャー観は道徳面、形式面、礼儀作法面を重視して、実際の効果は少ない。これとは対照的に、外国人はレジャー効果を重視している。官吏から一般の平民まで、すべてが重視する競馬は生活を豊かにすることができるし、乗馬には身体のトレーニング効果もある⁵⁷⁾。

このように、『申報』は競馬などのレジャーが仕事の疲労と精神のストレスを取り除くなど、多くの功利性を持つことを認識し、人々の生活の質

を高めていることを指摘した。

また、外国人は競馬開催の1週間前に専門的な人たちを雇い、競馬場内の芝生を刈り揃えたり、コースや周辺の道路を平らにならしたりした。このような施設の整備について『申報』では、次のように述べている。

競馬はただの遊戯ではない。外国人はこれに多くの精力を傾ける。馬の選定と騎手の訓練を重視するだけでなく、競馬場の整備もとても重視している⁵⁸⁾。

このように、中国人は外国人が競馬場のコースや施設周辺の設備を重視するのを知って、スポーツ施設の整備に関する意識の高さを認識するようになった。

中国人は最初、見るスポーツとして競馬に接したが、やがて馬券を買うようになった。1909年に中国人の観客が競馬場内に入ることを許可されると、賭け事の気風はいっそう高まった。『申報』には、しばしば馬券の種類、中国人が馬券を購入する様子などに関する記事が掲載された。1882年から『申報』は常に馬券の発売広告を掲載している⁵⁹⁾。富豪の中には競馬のレースに資金面でかわりたいたい人も現れ、自ら競馬場を建設し、レースを運営するようになっていった⁶⁰⁾。

5.2 外国人のボートレースが中国人に与えた新たなスポーツ観

『申報』は外国人の観客と中国人の観客がレースを楽しんだ様子を報じ、中国人も外国人と同じようにボートレースの観戦をレジャーの一つとすることを提唱した。

『申報』は、外国人のボートレースを中国伝統の竜船競漕と比較して以下のように述べ、両者に一定の相似性を認めつつも、土着性や祝祭性を持つ竜船競漕の歴史的な意味が徐々に忘れられてきたことと外国人のボートレースの盛況ぶりを対比し、両者の現状が中国の衰退と西洋の強大さを象徴しているように受け止めた。

中国の歴代王朝には代々船の競技があり、その中で最も有名なものは旧暦5月5日の端午に毎年行われる竜船競漕である。この競技は戦国時代の楚国の有名な愛国詩人屈原を記念する競技だと言いつづけている。この日に屈原は川で自殺したとされ、毎年この日に人々は皆ちまきを入江の中に投げ入れて、盛大な竜船競漕を行う習慣がある。…しかし現在の竜船競漕はすでに哀悼の意味や歴史的な意味を失い、…ただ中国人が酒食遊楽にふけるための口実になってしまっている。中国の竜船競漕の衰退と外国人のボートレースの繁栄は極めて対照的である。外国人はレースの規則を厳格に守り、公正な競争を行い、ボートレースの中から楽しみを得るだけではなく、更に水兵達の能力を養い、それによって国防のための軍事力を高めている⁶¹⁾。

また、『申報』は、以下のように中国の伝統的な竜船競漕が人々の精神面に対する効果を重視していたのに対し、外国人のボートレースは専門的なルールを備えて競技性を重視していたことに着目した。

伝統的な竜船は勝利を重視せず、礼儀をきちんとわきまえ、精神修養を重視して道徳的に向上することを目指している。…このような価値志向の影響で、競争意識は日に日に淡泊となり、次第に娯乐的、演出的、儀礼的な競技に転化している。…これと比べて、外国人のボートレースは強烈な競争性を持っており、…竜船とは違って、単なる民俗行事あるいは大衆的な競技というのではなく、より専門的な訓練や熟練性を必要とする競技である⁶²⁾。

なお、先行研究では、中国人と外国人によるボートレースの交流戦は1890年代に初めて行われたと書かれているが⁶³⁾、本研究によって、少なくとも1878年には開催されていたことが明らかになった⁶⁴⁾。

5.3 外国人の運動会が中国人に与えた新たなスポーツ観

『申報』の記事によれば、外国人の運動会に対する関心は高く、競馬やボートレースに劣らず、毎回多くの人々が観戦に訪れていた。また中国人も運動会に関心を寄せ、会場にやって来た。動物のレースがあるなど、多彩な種目で構成された運動会に中国人は強い好奇心を持ったのであった。中国人にとって運動会は非常に面白い、観賞性を備えた行事の一つになっていった。

競馬やボートレースに比べ、陸上競技は、走る、跳ぶ、投げる、歩くなど、ほとんど道具を使わず、基本的に体だけを使って地上で記録を競うスポーツである。『申報』には種目が詳しく記載されていないので、当時の中国人は全ての種目の名称を知らなかったと思われる。このように、陸上競技の知識は十分ではなかったが、中国人は当時陸上競技を「賽力」(中国の古典文で、力の競争の意味)と称したことから考えると、陸上競技は身体的な能力を発揮して競争を行うものであり、身体を鍛錬する必要があることは理解していたと思われる。『申報』は陸上競技が身体に健康に有益であり、足だけではなく、身体各部の有機的な鍛錬に有効であることを認識し始めた⁶⁵⁾。

5.4 その他の外国人のスポーツ活動が中国人に与えた新たなスポーツ観

『申報』は、上海租界内の外国人にとってクリケットが娯楽の一つであることを取り上げ、特にこのスポーツのレジャー性に興味を示し、その様子を次のように記述した。

クリケットの時間は非常にゆっくり流れる。競馬やボートとは比較にならないほど長い時間を費やすため、クリケット場で試合を見ている人の中には、ビール片手にうとうとする人もいるなど、ゆったりした時間をのんびり楽しむ人も多かった。外国人は一緒に座って話をしながら、のんびりと試合を観戦していた。クリケットの試合には途中で休憩時間があって、選手達はク

リケット会場の競馬場内で酒を飲んだり、食事をしたり、少し休みをとったりした後また試合を行う。試合をする選手や観客は、のんびりと満ち足りている様子で、勝敗にあまりこだわらず、試合の過程を楽しんでいるようだった⁶⁶⁾。

このように、他のスポーツにないクリケットの特徴として、試合中のティータイムに関心を寄せ、長い試合の間にお茶やお酒を飲みながら談笑するという優雅な習慣があることを紹介している。クリケットは、勝敗だけではなく社交も大切にするという一面があること、また観客もゆったりした時間を楽しんでいることを伝えようとしたのである。

『申報』によれば、中国人は外国人のペーパーハントは、競馬と同様に軍事力を高める効果があると考えていた⁶⁷⁾。また、『申報』は、中国人に外国人の競馬やボートレースや運動会などの新しいスポーツ活動を学ぶように奨励したが、ビリヤードに対しては常に痛烈な批判的意見を表明していた。

クリケットは兵士の体を鍛え、軍事力を高めることに非常に大きく貢献している。それに比べて、ビリヤードはただの遊戯に過ぎない。中国人はビリヤードに対して大きな興味を示すが、複雑な規則を必要とし、より多くの体力と選手間の互いの協力が不可欠なクリケットには全く関心を持たない。中国人が西洋人の文化を学ぶことの弊害がここに見られる。表面的なものに対してのみ興味を持つだけで、更に奥深い文化の本質については学ぼうとしないのだ⁶⁸⁾。

中国人は西洋のスポーツの一つであるビリヤードに大変興味を持ったが、ただ賭け事に夢中になっていた。『申報』は、イギリス人も賭けはするが、賭け事はビリヤードの表面的なことに過ぎないと述べ、ビリヤードよりクリケットのような体を動かす集団的なスポーツを通して、外国人の実利的な態度を学ぶべきだと主張した。しかし、実際のところは、前述のように、中国人は入場が禁止されていたため、クリケットを見ることもブ

レーすることもできなかったのであり、クリケットのような集団的スポーツを学ぶことは困難だったのである。

6. まとめ

上海租界は約100年の歴史を持ち、中国の外国人居留地（租界）の中では最も古く、面積も最大で、居住した外国人の数も最も多い。従って、中国の近代化に及ぼした影響も最も大きかったとされ、中国の近代スポーツ導入の重要拠点であったと考えられる。

本研究は、先行研究で示されたYMCAとミッションスクールにおけるスポーツ活動よりも早い時期に存在した上海租界の外国人によるスポーツ活動の実態とそれらが中国人に与えたスポーツ観について、『申報』（1872-1911年）によって明らかにした。それらは以下のように要約することができる。

1) 上海租界における外国人のスポーツ活動について

『申報』には、外国人のスポーツ活動について、競馬、ボート及び運動会について取り上げたものが多く、特に競馬の記事が顕著に多かった。これら以外には、ペーパーハント、クリケット、ビリヤードなどのスポーツについて掲載され、それらのルール、試合日程、試合の様子などについて紹介された。

外国人のスポーツの最大のイベントは競馬であり、春と秋に開催された。その1-2週間前にボートレースが、競馬の終了後1週間以内に運動会が開催され、その後ペーパーハントが行われた。試合の主な開催場所は競馬場で、運動会、ペーパーハント、クリケットもそこで実施された。

2) 上海租界における外国人のスポーツ活動の植民地性

上海租界の外国人のスポーツは強い植民地性を持ち、中国人の土地を半強制的に接収して競馬場

などのスポーツ施設を建設した。また、競馬や運動会などの初期の試合では中国人の入場・観戦・会場の使用が禁止された。

3) 外国人のスポーツ活動が中国人に与えた新たなスポーツ観

上海租界で行われていた外国人のスポーツ活動は、中国人に以下のような新たなスポーツ観を与えた。

① アヘン戦争後、欧米列強の強大な軍事力やそれを支える優秀な科学技術と文化を意識せざるを得なかった中国人は、西洋文化の一つである近代スポーツが軍事力を高めることに役立っていると考えようになった。

② 当時の中国社会には「重文軽武」という気風があり、身体的な活動は重視されなかった。しかし、上海租界の外国人が激しい身体活動を伴うスポーツを重んじ、楽しむ様子を見て、中国人はスポーツが身体各部を鍛錬することに役立ち、健康にも有益であると認識するようになった。

③ 上海租界の外国人社会においては、競馬やボート、運動会などの開催時には、公共機関が休業した。このことは中国人に大きな衝撃を与え、スポーツがレジャーの一つでもあることを認識させた。中国人はそれらの競技が「見るスポーツ」としても楽しめることやスポーツがレジャーの一つでもあることを認識した。

④ 中国の伝統的な競技には明確な規則や組織が存在していなかったが、外国人のスポーツにはすべてそれぞれに明確な規則や組織があり、施設も備えられていた。中国人はスポーツにおけるこれらの必要性を認識し始めた。

4) 上海租界における外国人のスポーツ活動年代の修正

従来、中国人と外国人のボートレース交流戦の開始年代は1890年代だとされていたが、本研究によって少なくとも1878年には開始されていたことが明らかになった。

なお、今後の課題としては、上海租界時代の全

期間について外国人のスポーツ活動の全体像とそれへの中国人の関わりを把握することである。そのためには、少なくとも1943年までの『申報』も調査する必要がある。また、当時の上海における『申報』以外の発行物についても検討したいと考えている。

注及び引用文献

- 1) 崔楽泉：中国近代体育史話。中華書局，1998, p.81
- 2) 夏東元：洋務運動史。華東師範大学出版社，1992, p.45
- 3) 許義雄：中国近代体育思想。啓英文化実業有限公司，1996, p.152
- 4) 郎浄：近代体育在上海。上海社会科学院出版社，2006, p.57
- 5) 同上書，pp.50-62
- 6) 同上書，p. 3
- 7) 上海租界志編纂委員会：上海体育志。上海社会科学院出版社，1996, p. 6
上海の2つの租界は中国のその他の23租界の面積総計の1.5倍に上る。英租界の面積が最大のときは22平方kmにまで拡大し、仏租界の面積の最大値は約10平方kmであった。1932年に、上海租界の人口は100万人を突破し、日中戦争の際にさらに40万人の華籍難民が流入した。1943年に上海租界の人口の総計は500万を上回った。1852年以後、上海の経済発展は全国一位で、1930-40年代には上海の対外貿易は全国総額の80%を占めていた。
- 8) 費成康：中国租界史。上海社会科学院出版社，1991, p.23
- 9) 1911年（辛亥（かのとい）の年）に起きた中国のブルジョア民主主義革命のことである。この革命により、約300年続いた清朝が減じて2000年来の専制政治が終焉を迎え、中国史において大きな時代の区切りとなる。その後、中華民国が誕生し、民主共和政治の基礎がつけられた。
- 10) 白潤生：中国新聞通史綱要。中央民族大学出版社，2004, p.35
- 11) 秦紹徳：上海近代報刊史論。復旦大学出版社，1993, p.115
- 12) 「本館告白」申報，1872. 4. 30
- 13) 方漢奇：中国近代報刊史。山西教育出版社，1991, p.45-54
- 14) 陳玉申：晚清報業史。山東画報出版社，2003, p.41
- 15) 『京報』は清朝政府の官報。
- 16) 前掲書3)，p.80-84
- 17) 徐忍寒編纂：申報七十七年史料。上海文史館，1962, p. 7
- 18) 上海申報館の統計データによると、『申報』が創刊された1872年当時の毎日の発行部数は約600であったが、その後発行部数を増し影響力は強まっていった。1919年には、『申報』の一日の発行部数はすでに5万部を上回り、発行地域は中国各地に及び、日本、朝鮮、タイ、欧米などの外国でも発行を開始した。
- 19) 方漢奇：中国近代報刊史。山西教育出版社，1991, p.66-78
龐榮棟：史量才 現代報業巨子。上海教育出版社，1999, p.25
宋軍：申報の興衰。上海社会科学院出版社，1996, p.34
- 20) 費成康：中国租界史。上海社会科学院出版社，1991, p.10
- 21) 前掲書7)，p.687
- 22) 阮仁沢・高振農主編：上海宗教史。上海人民出版社，1992, pp.869-874
- 23) 前掲書4)，p.162
- 24) 一つの記事に複数の種目について記されている場合があるので、全体の記事数と図の種目の合計数とは必ずしも一致しない。
- 25) Rebecca Cassidy: The Sport of Kings: Kinship, Class and Thoroughbred Breeding in Newmarket. Cambridge University Press, 2002, p.42
ニューマーケット競馬場 (New market Race Course) は、イギリスのサフォーク州にある世界最大の競馬町ニューマーケットにある競馬場のことである。1660年頃に競走コースが作られたと

- 記録されている（現在のローリーマイルコース）。
- 26) 「観西人闘馳馬歌」 申報, 1872. 5. 2
- 27) 熊月之: 上海競馬クラブから人民公園人民広場へ—歴史の変遷と象徴的意義—上海社会科学院, 2006, p.41
- 28) 岑德彰: 上海租界略史. 文海出版社, 1971, p.116
- 29) 「論中国宜去浮夸之習」 申報, 1885. 8. 22
- 30) 前掲書28),
- 31) 前掲書18), 方漢奇: 中国近代報刊史. 山西教育出版社, 1991, p.66-78
- 32) 「秋賽一誌」 申報, 1886.11. 5
- 33) セント・ジョーンズ大学は、1879年に創建されたキリスト教会学校（旧セント・ジョーンズ学院）である。中国に西洋教育を取り入れた最初の学校で、英語を特に重視し、宗教やスポーツなどの課外活動にも重きを置いた。
- 34) 档案史学: セントジョーンズ大学自編校史稿. 档案史学出版社, 1, 1997
- 35) 「跑紙又記」 申報, 1884.11.30
「西人打彈考」 申報, 1891. 9. 23
「論華人習西法之弊」 申報, 1886. 6. 6
- 36) 「賽馬日期」 申報, 1879.10.23
- 37) 前掲書7), p.327
- 38) 「西人賽力」 申報, 1875.12. 2
- 39) 「賽力熱鬧」 申報, 1881.11.25
- 40) 「賽力誌略」 申報, 1886.11.14
- 41) C. Noel Davis: A history of the Shanghai paper hunt club, 1863-1930. Kelly and Walsh Limited, Shanghai, 1930, p. 3
- 42) 「賽馬先声」 申報, 1886. 3. 30
- 43) 郎净: 近代体育在上海. 上海社会科学院出版社, 2006, p.54
- 44) Roy Morgan: The Encyclopedia of World Cricket, Sports Books Publishing, 2007, p.89
- 45) 周家騏: 上海足球. 上海体育書報社, 1945, pp.26-33
- 46) 「春賽一誌」 申報, 1909. 5. 6
- 47) 「賽船獲勝」 申報, 1878. 4. 1
- 48) 吳志偉: 旧上海の外国人の競馬活動. 档案春秋. 6, 2007, p.89
- 49) 「馬夫停工」 申報, 1878. 8. 5
- 50) 前掲書27), p.64
- 51) 「西人賽力」 申報, 1883. 4. 17
- 52) 「賽力屆期」 申報, 1886.11.13
- 53) 「跑人」 申報, 1873. 5. 19
- 54) 前掲書4), p.401
- 55) 前掲書3), p.72
- 56) 前掲書35)
- 57) 「紀西商跑馬」 申報, 1879. 5. 1
- 58) 前掲書26)
- 59) 「跑馬發財大票出售」 申報, 1882. 4. 1
- 60) 「西人打獵風景」 申報, 1874.11.30
- 61) 「龍舟競渡說」 申報, 1873. 5. 22
- 62) 「論中国宜去浮夸之習」 申報, 1885. 8. 22
- 63) 前掲書3), p.23
- 64) 「賽船獲勝」 申報, 1878. 4. 1
- 65) 「行樂說」 申報, 1888. 8. 27
- 66) 「西人打彈考」 申報, 1891. 9. 23
- 67) 「論西人獵紙及馳馬墮谷事」 申報, 1873.12.16
- 68) 「西人打彈考」 申報, 1891. 9. 23